

【標準例】※ 標準例であり、評価項目の詳細は施設の目的・特性に応じて適切に設定すること  
平成29年度施設管理に対する評価シート

◎基本情報

管理施設

① 施設名	舞洲ヘリポート
② 指定管理者名	小川航空株式会社
③ 評価対象期間	平成29年4月1日 ～ 平成30年3月31日
④ 指定期間	平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日
⑤ 所管課・担当	港湾局営業推進室開発調整課（電話：06-6615-7754）

管理運営業務等の概要

① 業務概要	舞洲ヘリポートは、大阪市における航空運送の確保その他航空交通の用に供することを目的としており、次に掲げる事業を行っている。 ○消防・警察などの保安活動のためのヘリコプターの離着陸・停留の受け入れ ○市民ニーズに対応した遊覧飛行のためのヘリコプターの離着陸の受け入れ
② 利用状況の概要	訓練目的の利用者に対して優遇プランを用意し、広告活動を行ったことで、集客につながったが、全体の利用件数の減少を押し上げるには至らず、着陸件数は昨年度より36件少ない2074件であった。目的別で見ると、「訓練」が187件増加したが、個人利用等が多い「その他」は209件の減少となった。 利用者数の内訳においては遊覧人員が昨年度より286人少ない1489人であった。
③ 施設の設置目的・目標 (成果指標)	舞洲ヘリポートは、公共用ヘリポートとして、消防・警察などの保安活動の利用に供するほか、報道取材活動や遊覧飛行などの利用に安全かつ適切に対応することを目的とする。
④ 年度目標	舞洲ヘリポートは、公共用ヘリポートであることから、透明性、客観性、公平性、中立性を担保した施設運営を行い、さらに1日たりとも休場することなく、365日無休で管理運営を行うことを目標とする。 さらにエアポートセールス等を行い、より一層の利活用を促進する。また、地域住民をはじめとした市民との交流や連携、地域協働は極めて重要であるという認識のもとに、イベントを開催するなど、地域と一体となった運営を目指す。

◎管理運営の実施状況

1 施設の設置目的の達成及びサービスの向上

① 施設の管理運営状況（管理運営方針・手法に沿った施設の維持管理の状況、平等利用の確保、職員の体制、危機管理・安全管理業務等の実施状況）	平成29年度の施設の管理運営状況については、協定書や計画書に示されたとおり適切に施設の管理運営がなされており、良好な管理運営が出来ている。 ○施設の維持管理状況 警備、清掃、機器保守点検について、計画されたとおり適切に実施されている。設備等に不具合が生じた場合も本市への報告が速やかになされており、劣化したマンホールパッキンの交換や航空灯火用電球を予備的に購入するなど、
--	---

	<p>修繕や備品の交換等が適切に実施されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平等利用の確保 利用の申請については可能な範囲で全て受け入れを行っており、平等利用が適切に確保されている。</li> <li>○職員の体制 通常は10名の職員によるシフト勤務体制により、事業計画どおり（常時2名以上の職員を配置）に体制が確保されており、多数の職員が必要となる事案が発生するなどの緊急時には十分なバックアップ体制を構築することで対応している。 運用時間外（午後7時から午前7時まで）の離着陸許可申請があった場合には、適宜職員を配置することにより適切に対応がなされている。</li> <li>○危機管理・安全管理業務の実施状況 事故等に備えて、予め消防機関、警察機関、海上保安庁官署、その他の機関による24時間の緊急時連絡通報体制を整備している。また、関係諸機関が出席する舞洲ヘリポート保安委員会を年2回開催し、ヘリポートの保安体制の強化に取り組んでいる。平成29年度は消防訓練に加えて、ハイジャック、爆破予告、伝染病及び危険物漏洩等へ対応するための実地訓練を行った。</li> </ul>
<p>②事業計画の実施状況（計画に沿った事業実施、サービスの質、利用促進のための取組みと効果、利用者満足度の把握・反映状況、自主事業等の実施状況）</p>	<p>平成29年度は、協定書や計画書に示されたとおり事業が実施できていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○サービスの質や利用促進のための取組と効果 平成29年度からの新たな取り組みとして自社事業に関するSNSを開設し、遊覧の利用者の感想を載せるなど利用促進の取り組みを行った。また、英語のホームページを作成したことで、海外からの問い合わせも来るようになったが、外国語を話せるスタッフの不足のため、実績につながらないこともあり、今後の課題となっている。加えて、訓練のためにヘリポートを利用する利用者に対して優遇を実施し、売り込みを行ったところ訓練目的の利用実績が増加した。</li> <li>○利用者満足度の把握・反映状況 ヘリポート利用者を対象にしたアンケートや聞き取りを実施し、満足度の把握に努めている。</li> <li>○自主事業等の実施状況 此花区民向けのイベントにて「舞洲ヘリポート見学ツアー&amp;遊覧飛行体験」を賞品として提供する振興事業を実施した。</li> </ul>
<p>③施設の有効利用（他施設との連携状況、地域との連携状況、市民・NPOとの協働状況等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他施設、地域、市民・NPOとの協働状況等 平成29年度は、近隣の障がい者支援施設からの要請で、無料でヘリポート見学会を実施する等、地域との連携をはかった。また、隣接する舞洲ゆり園と連携して遊覧飛行を小川航空の自社事業として実施する際、ヘリコプターの魅力を伝えると同時に、舞洲ヘリポートのパンフレットを配布するなど指定管理業者として、舞洲ヘリポートのセールスを実施している。その他、地域との防災連携を図るため、</li> </ul>

	自主消防訓練を実施するなど本市の求める水準に達している。
--	------------------------------

## 2 市費の縮減効果（収支状況）

① 収入・支出状況	別紙のとおり
② 市費縮減に係る取組み状況	清掃管理などにおいては、再委託に頼らず指定管理者職員が一丸となりサポートすることで経費縮減を図っている。平成29年度はアルバイトスタッフが減少したことで、時給単価の高い本社スタッフがヘリポート業務を補助する機会が多くなったため、指定管理業務としては人件費が増加した。

## 3 社会的責任・市の施策との整合等

環境への配慮、就職困難者の雇用への取組み、個人情報保護に関する取組み等の実施状況	<p>平成29年度は協定書や計画書に示されたとおり取組みができていた。</p> <p>○環境への配慮 事務所内ごみの分別徹底、室温の徹底管理、自然光を利用するなどして、省エネの取組みを実施している。</p> <p>○個人情報保護に関する取組み等 個人情報については紙媒体での保管にとどめ、鍵のかかるロッカーで保管する等適切に実施している。外部への個人情報の持ち出しを禁止することで、個人情報の漏えい防止に取り組んだ。</p> <p>○その他 周辺区域の清掃活動を実施し、ポイ捨てや不法投棄についても処分できないものがあれば大阪市に報告することで、周辺環境の整備を積極的に行っている。</p>
--	---

## 4 その他（点検等における要改善項目の対応状況、その他特筆すべき事項等）

① 評価項目概要	昨年度に引き続き赤字が増加している。
② 上記についての成果や望まれる対応等	赤字について市費で補填することはないため、市の損失はないが、このまま利用料金収入が減少して赤字が拡大すれば、赤字を補填する指定管理者の本社事業への負担となり、ひいては指定管理事業にも影響が及ぶ可能性があるため、ヘリポート利用の促進を図るなど収支改善に努められたい。

◎評価

1 所管所属による1次評価（太枠にS・A・B・Cの四段階で評価を記入）

①施設の設置目的の達成及びサービスの向上に対する評価	公共用ヘリポートとしての目的及び使命を十分把握した上で、無事故で休場することなく運営が行われており、本市の定める水準どおりの効果が得られた。	B
② 市費の縮減効果に対する評価	清掃管理などにおいては、再委託に頼ることなく職員が実施することで経費縮減に努めており、概ね本市が求める水準通りの効果が得られた。	B
③社会的責任・市の施策との整合等に対する評価	ごみの分別や室温管理等の環境への配慮に努めており、個人情報保護、周辺環境の整備などについても適切に実施していることから、本市の定める水準どおりの効果が得られた。	B
③ 総合評価	当初想定していた事業収入が確保できず、収支が経常的に赤字となっている点については過年度からの課題ではあるが、航空事故、休場日がなく、苦情等がなかったことから良好な管理運営が出来ていると認められ、全体的には概ね本市が求める水準通りの効果が得られた。	B

2 外部専門家等の意見

<p>厳しい条件のもと休場なしで安全運航を続けていること、またヘリポートのPR活動を行ったことやヘリポート利用の需要を増やす努力をしていることは評価できる。今後は訪日観光客を対象とする企画を実施するなど、より幅広い視点を持って取り組んでもらいたい。</p> <p>一方で、民間事業者としての本来事業の黒字にて指定管理事業の大きな赤字を埋めるという内部補助の実施により、指定管理者の本来事業にまで悪影響を与えないか、また、人件費をも含めた経費削減に努めるあまり、指定管理業務の安全性確実性を確保できない状況にならないかが懸念されるため、赤字解消のための抜本的な解決策を練る必要がある。</p> <p>指定管理業務の収支計画が適切であったかどうかという問題はあるが、当該業務は大阪市の負担ゼロということで取り組まれているものであり、平常時から他機関の協力も得ながら、ヘリの利用増進を図るなど、収支改善に向けて大阪市としても協力・指導できないか検討してもらいたい。</p>
---

3 所管所属最終評価（太枠にS・A・B・Cの四段階で評価を記入）

①施設の設置目的の達成及びサービスの向上に対する評価	公共用ヘリポートとしての目的及び使命を十分把握した上で、無事故で休場することなく運営が行われており、本市の定める水準どおりの効果が得られた。	B
③ 市費の縮減効果に対する評価	可能なものに関しては再委託に頼ることなく職員が実施することで経費縮減に努めており、概ね本市の定める水準どおりの効果が得られた。	B
③社会的責任・市の施策との整合等に対する評価	ごみの分別や室温管理等の環境への配慮に努めており、個人情報保護、周辺環境の整備などについても適切に実施していることから、本市の定める水準どおりの効果が得られた。	B
④ 総合評価	赤字が拡大している点については引き続き課題であるが、航空事故、休場日がなく、苦情等もなかったことから良好な管理運営ができており、全体としておおむね本市の定める水準どおりの効果が得られた。	B

評価の基準 { S…事業計画又は本市の定める水準の想定を大幅に上回る効果が得られた  
A…事業計画又は本市の定める水準で想定した以上の効果が得られた  
B…おおむね事業計画又は本市の定める水準どおりの効果が得られた  
C…事業計画又は本市の定める水準で想定した効果が得られていない

※ 施設の管理運営に関して過失による事故や協定違反等による改善指示、指名停止措置（平成 25 年 4 月から「参加停止措置」）などのペナルティを受けた場合は、当該項目と総合評価については原則として C とすること